8 高校の授業を体験する　－体験入学－

◆日々の授業を開く－校内・校外の授業公開、及び体験入学－

中学校や高校間での授業公開を日常的に行うことは大変意義があります。新聞でも紹介された福島女子高校の例は、平成11年６月に校内の教員どうしが「普段着の授業」を見せ合うという内容でしたが、同年９月には周囲の中学校にも案内を出し、遠く県中地区からの参観者もあったそうです。

また、福島東高校でも、数年前から同様の試みが行われており、「いつでも、どこでも、誰にでも」「見せる、見せられる」理想的な授業の在り方を模索しています。また、体験入学の内容にも、さらにユニークな企画が期待されます。１日だけでなく数日間に渡って実際の授業に参加したり、教員ばかりでなく生徒会などを通して、生徒どうしが本音で語り合える場を設けるなど、中学生がその高校の良さや特色を実感できるような工夫をすることが大切です。

指導力を高めよう

福島女高　同僚教諭の授業公開

教師の指導力向上を目的に実施した福島女子高の授業公開

福島市の福島女子高（村上修校長）は十五日、校内一斉授業公開を行った。授業をほかの教師が自由に見学できるようにした試みで、教師自身の指導力向上を目的に初めて実施した。

学校週五日制、男女共学化など教育環境が変化する中、教師の指導力がますます問われており、教師が現場の教師から学ぶという取り組みは全国的にも珍しく、関係者の注目を集めそうだ。

同校は各学年十クラスで、当日行われた六校時までの百八十の授業が対象となった。七十一人の教師が空き時間を利用して同じ教科の先輩の授業などを見て回った。授業の組み立てや展開方法、生徒の反応などメモを取りながらつぶさに観察した。

以前から若手を中心に教師の〝授業参観〟への要望が多かったため、「公開日」を決めて制度化した。

杉浩重教頭は「研究授業などかしこまった授業ではなく普段着の授業を見る機会はこれまでなかった。お互いの授業を参考にすることはそれぞれの指導力向上につながるはず。これを機に授業を見学し合うなど教師同士のコミュニケーションを一層深めてほしい」と話していた。

この日は福島大教育学部の高野保夫、大久保隆弘両教授はじめ学生七人も見学に訪れた。

「授業公開」は九月にも実施する方針という。

指導力を高めよう　同僚教諭の授業公開
（「福島民報」 平成11年６月19日）

◆高校の雰囲気を実際に体験する

中学生にとって、高校の様子を肌で感じることができるという意味で、体験入学は大きな役割を果たしています。

専門高校においては、以前から盛んに行われていましたが、最近では、普通高校においても行われ、中には、中学生に模擬授業をする学校もあります。中学校としても、高校の様子を生徒に知らせる進路指導の一環として、ぜひ有効に活用したいものです。

中学生が知りたいことは、例えば、次のような点です。

・部活動の種類、学校の雰囲気、就職や進学の状況、科の内容、授業内容、学校行事　等